

問題

次の文章を読んで、「まなぶ」の反対語は何であるかと考えるか、あなたの考えを六〇〇字以上八〇〇字以内で記しなさい。なお、適切な題目も付けること。

「平和の反対語は？」と尋ねられたら、何という言葉を思いつくか？

最初にうかぶ言葉の一つは、「戦争」ではないでしょうか。しかし、わたしたち戦争を直接に経験していない世代は、戦争についてちゃんと理解できているとは言いがたい。それがよくないことだとは知っていますが、メディアで見聞きする以上のことは何も知らない。では、知らないその言葉を反対語にしたところで、当然ながら、想像する元の言葉の輪郭もあいまいにならざるをえない。そう考えると、実はわたしたちは平和というものを考える土台を、そもそもちゃんとつてはいないのではないのでしょうか。

二〇二四年三月一日から、絵本作家いわさきちひろさんの没後50年の記念特別展「いわさきちひろ ぼつこ 50ねん こどものみなさまへ」が催されています（ちひろ美術館・東京、安曇野ちひろ美術館にて）。あそび・自然・平和という三つのテーマを掲げていますが、その企画協力者の一人として声をかけていただきました。自然や遊びに関するワークショップや、テレビ番組の制作協力などには多少経験があったためにお声がけいただけたと思っていたので、「平和」というテーマをいただいたときは正直戸惑いもありました。これは拙著『問いのデザイン』（学芸出版社）の視点から、一緒に平和についての問いを考えてほしい、というちひろ美術館さんからのリクエストでした。概念の輪郭があいまいなとき、個人的な習慣としてしている問い方の一つが「反対語のワークショップ」です。それで冒頭の問いをまず考えてみました。そこで得た最初の気づきが、「わたしたちは平和のことをよく知らないかもしれない」だったのです。

（…中略…）

反対語のワークショップで、これまで何万人にも問いかけてきた言葉のうち、とくに多く扱ってきたのが「はたらく」と「まなぶ」です。地域住民や会社で働く大人向けには「はたらく」の反対語を、学校で学ぶ児童生徒には「まなぶ」の反対語について、それぞれ問いかけてきました。

「はたらく」や「まなぶ」の反対語に、あそび・楽しむ・休む、といったポジティブな言葉が並ぶことは少なくありませんが、そうなると元の言葉がどちらかといえばネガティブな印象だったことになります。ある高校での講演で「まなぶ」の反対語を尋ねたときに、「教わる」という言葉を書いた生徒さんがいました。講演後の高校生代表者挨拶で、その生徒さんが「わたしたちは三年間、教わってばかりで自ら学んでいなかったことに気づかされました」とその気づきを紹介してくれました。このように、反対の言葉を一度考えてみることに、言葉の輪郭が見えてくる効果があるのです。

（…後略…）

（塩瀬隆之「反対語から考えを深める」『図書』二〇二四年八月号による）